

長尾小だより

第7号
文責

平成26年9月25日(木)
校長 田中 均

【運動会練習】

9月27日(土)の運動会に向けて、9月の2週目から本格的に運動会の練習に取り組み始めました。特にダンスなどの表現運動は、発表するまで時間を要するので、何回も繰り返し練習しています。低学年では「エイサー」、中学年では「ロックソーラン2014」、高学年では「組み立て表現」の練習時間が多くあります。本番ではどんな仕上がりになるのか楽しみにしています。



【中学年の様子】

児童会で作り上げる運動会にする取り組みの一環です。

児童会が中心となって考えた今年の運動会のスローガンは、「競え！争え！燃え上がれ！」です。このスローガンのように、児童の声援で燃え上がるような運動会となることと思います。

また、今年の運動会は、大きく2つの変更点があります。1つは、低学年(1年生・2年生)も開会式から閉会式まで、団の中で一緒に応援し、最後まで参加するということです。こうすることによって、本当に、長尾小の全児童で作り上げる運動会となることを期待しています。もう一つは、昼食後に、各団による応援合戦を入れたことです。6年生を中心に、各団ごとに工夫した応援の様子が見られることと思います。これも、全

【低学年の様子】

児童で作り上げる運動会にする取り組みの一環です。



【高学年の様子】

【佐藤次郎さん】

この名前を聞いたり見たりしたことがありますか？テニスの錦織選手の活躍と共に、報道されることも多かったと思います。職員玄関に「佐藤次郎さん」の紹介のパネルがあります。佐藤次郎さんは戦前になりますが、本校の出身であり、国際的なテニスの大会(四大大会)で活躍し、世界から賞賛された方だということです。道徳の副教材としても、本校には次のような形であります。



「世界で活躍したテニス選手 佐藤次郎」

みなさんはこの写真の人を知っていますか。この人は名前を「佐藤次郎」といいます。

佐藤次郎は、明治四十一年(1908年)旧子持村の横堀に生まれました。長尾小学校に入るとまもなく、兄とテニスを始めました。小さい板をけずってラケット代わりにし、自分の家の庭で、一人の時は家の壁を相手に練習をしていました。学校にはラケットがあり、三、四年生のころは、兄と二人きりで、放課後だれもいなくなるまで練習していました。先生に注意されることもたびたびあったそうです。しかし、上級生や先生たちが相手をしてくれることもあって、力がめきめきついてきました。そのうち、上級生も先生も歯が立たなくなりました。他の運動も得意でしたが、勉強もがんばり、一年生から六年生まで抜群の成績で、クラスの友達からの信頼も厚く責任感も強いので、毎年学級委員を務めるほどでした。

その後、旧制渋川中学校(現渋川高校)に進学して、テニス部に入りました。校庭には軽石がごろごろして、まともなテニスコートがありませんでした。そこで、コート作りをすることになりました。とてもきつく、部員にとってはもつともいやな仕事でした。しかし、入学してすぐに正選手になった。次郎は、中心になってこの仕事に取り組みました。コートの土をふるい、学校近くの工場から石炭がらをもらってコート敷き、さらにローラーを借りてきて、コートを固めました。こうしてできあがったコートは、日曜も休日も、毎日使えるようになったそうです。また、練習をする日決まった日は、たとえ雨でもコートに出かけ、ほとんどの部員が休んでいるのに、彼一人他の部員が来るのを待っていたそうです。「約束したものは、何人かの間の間で成立するもので、一人の身勝手な判断から遅刻したり休んだりしてはできない。」というのがまじめな次郎の考え方でした。

次郎は『弱きを助け、強きを敬う』という言葉が好きです。彼の高度なテニスの技術は、外国の強い選手から学んだものでした。さらに、『勝利は技術だけではとれない。全人格でとるのだ』と考え、より高い目標を立て、それに向かって強い意志と実行力で取り組みました。彼のテニスは、みるみる進歩したそうです。

次郎の技術の高さに加え、コートマナーの良さは外国人の人々にも高く評価され、新聞でも取り上げられました。外国の観客の多くが、次郎を応援しました。そのころの日本は、まだ、あまり世界に知られていない国でしたが、次郎の活躍は、外国での日本の評価を高め、多くの日本人に勇気を与えました。

昭和五年、フィリピンのカニバル大会で優勝し、その時の優勝カップが「佐藤次郎杯」として寄贈され、今でもその大会が、その年には日本チャンピオンになり、世界タイトルを目標に、ヨーロッパで日本代表の一員として戦いました。ドイッ破り日本がベスト四に入る原動力になりました。彼はその結果、世界ランキング三粒と一九三二年」という記録を獲得し、日本がわきたちました。この記録は、日本人の史上最高記録として、今でも破られてはいません。

【清掃センター見学】

9月9日(火)に4年生は、清掃センター見学に出かけました。約40人の職員で清掃センターを管理しているそうです。清掃センターの説明を会議室のようなところでクラスごとに聞いたり、そこでは質問したりしました。見学コースでは、リサイクルに回る、空き缶やペットボトルがプレスされて、リサイクル工場に運びやすい四角い形になっていました。ゴミを焼却するところでは、ゴミピットに各家庭から出されたゴミと燃えるゴミが一緒になって集められていました。その後、大きな炉で燃やされ、焼却灰は最終処分場に運ばれていくことを学びました。社会科見学は、いつも見学して終わりではなく、その後学級で学んできたことを発表したり、情報交換をし、最終的には、社会科のねらいである「ゴミの行くえ」にどのように人々がかかわり、よりよい社会を築こうとしているのか学んでいきます。



【焼却炉の見学】

【はるかのヒマワリ】

みなさんは「はるかのヒマワリ」を知っていますか？



はるかのひまわりの由来

平成7年1月17日の明け方、5時46分、大きな地震が襲いました。木造の建物は、その揺れでひとたまりもなく崩れてしまい、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされていました。はるかちゃんがガレキの下から発見されたのは、地震発生から7時間後でした。

震災から半年後、かつてはるかちゃんの家があった空き地、はるかちゃんの遺体を発見した場所。驚いたことに、そこに無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向かって咲いていました。お母さんはひまわりを見て、「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花をこう呼びました。

『はるかのひまわり』

何も無くなってしまった町の空に、次々に咲いた大輪の花はたくさんの人を励まし勇気付けました。

【窓】

金管クラブのみなさんが、校庭でマーチングの練習をしている音を聞きながらこれを書いています。平成26年10月24日(金)に長尾小学校を会場に、渋川市の実践研究会が開催されます。これは、教員の研修会です。当日の授業研究会や実践発表に向けて、本校では研修を続けてきました。今、職員もその佳境に入り、最後の追い込み作業に取り組んでいるところです。運動会練習と、この準備と何かと忙しく過ごしています。しかし、子ども達の日々の活動に影響がなくてはならないので、日々の活動も充実させながら並行して取り組んでいます。放課後のそんな姿を見ると、「本当に頑張っているなあ」と頭の下がる思いです。職員のことをこんな風を書くのは、手前味噌かもしれませんが、また、欲目かもしれませんが、本当にこういった思いです。子どもたちとつくり上げる当日の発表に期待しているところです。なお、発表はどの学年も算数で行います。